

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

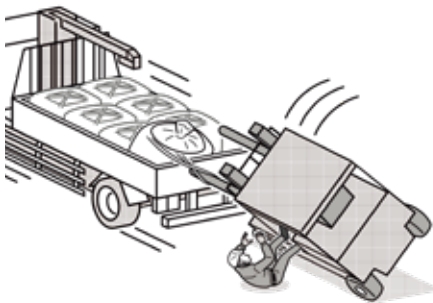
フォークリフトの横転事故編

労働災害は、いつ発生するか分かりません。しかし、事前の対策によりその多くは防止できるでしょう。今回はフォークリフトを使って荷物を積み込んでいた際、トラックが前進したためフォークが荷物に引っかかり、フォークリフトが横転した災害例および、その対策を紹介します。

災害例

フォークリフトが横転して その下敷きになった

粉末のセメントが入ったフレコンバッグ(重量1t)のつりベルトを、フォークリフトのフォークでつり上げて、トラックに積み込む作業を行っていた。フォークをつりベルトから抜く前にトラックが前進したため、つりベルトにフォークが引っかかり横転。作業者はフォークリフトのヘッドガードと床の間に挟まれた。



原因

- フレコンバッグをフォークリフトのフォークで直接つり上げて積み込む方法をとっていた
- トラック運転手が、フレコンバッグの積み込み作業が完了する前にトラックを発進させた
- 作業計画を書面で明示しておらず、労働者の作業方法が徹底されていなかった

対策

- フレコンバッグの積み込みはパレットや専用のフックを用いる
- フォークリフトの作業員とトラック運転手の間で、フォークリフトが離れトラックが発進する際の合図を決めておく
- 安全委員会などで安全面の問題点を取り上げ、労働者に危険を及ぼす恐れのある作業を排除し、安全作業の徹底を図る

フォークリフトは、技能講習を修了した者だけが運転できます 事業者・作業者は次のような対策を講じましょう

- 作業計画を書面で作成し、労働者が作業計画外の方法で作業しない
- 複数の作業者で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置する
- フォークリフトに関わる安全研修を実施する

